別添

# １　男女共同参画意識に関する調査〔調査結果の概要〕

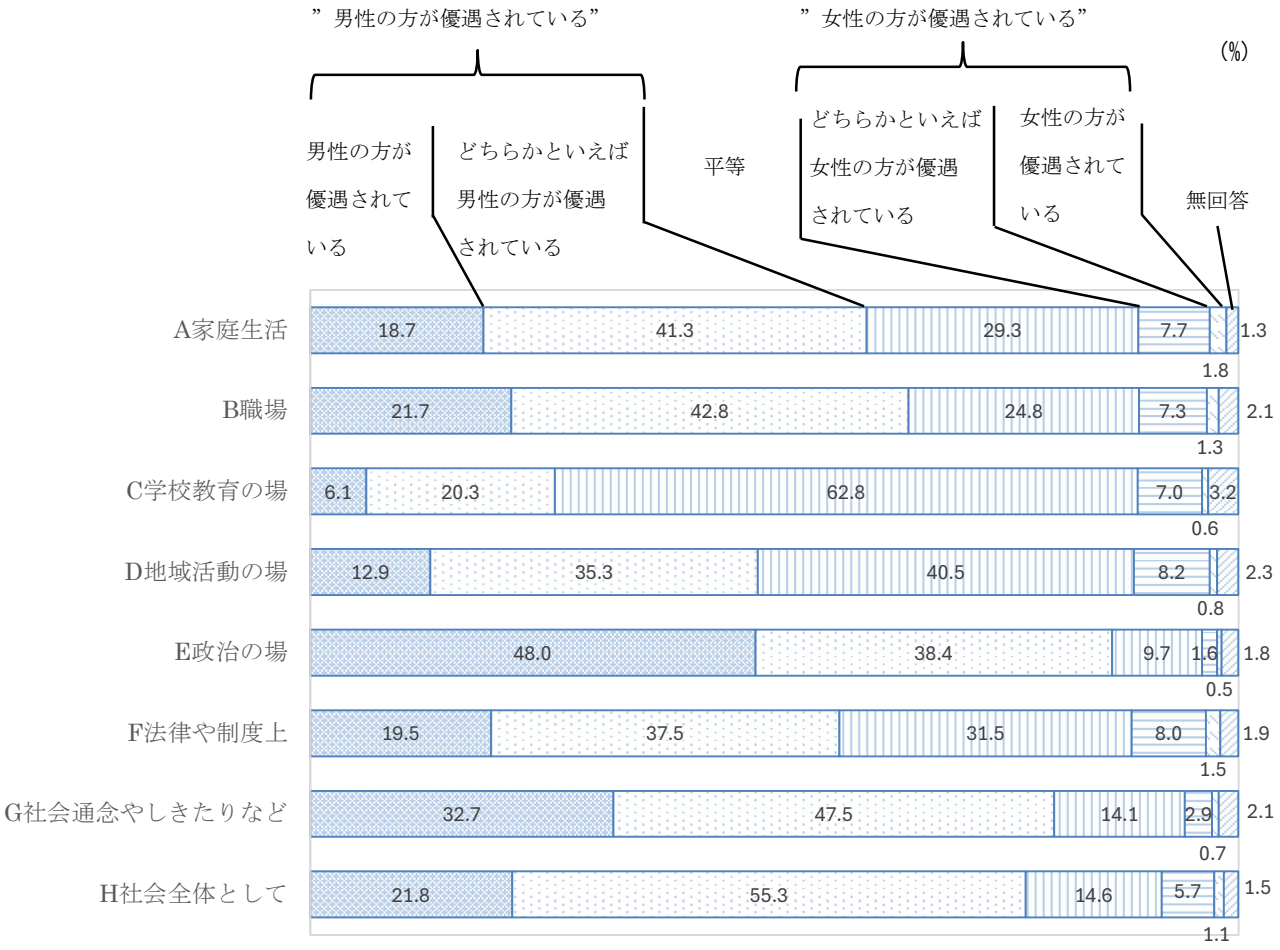
## １　男女平等について

### 男女の地位の平等感

・8 つの分野について、“男性の方が優遇されている”（（男性の方が優遇されている」＋ 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」以下同じ）と回答した人の割合は、高い順に 「政治の場」（86.4%）、「社会通念やしきたりなど」（80.2%）、「社会全体として」（77.1%）、「職場」（64.5%）、「家庭生活」（60.0%）、「法律や制度の上」（57.0%）となっている。
・「平等」と回答した人の割合は、高い順に「学校教育の場」（62.8%）、「地域活動の場」（40.5%）となっている。

**図１　男女の地位の平等感**

**【分野別】**



## 2　家庭生活について

### (1)　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

・“反対”（63.9%）が、“賛成”（34.5%）を上回っている。
・“賛成”の割合は、女性（31.4%）より男性（39.6%）の方が高く、年齢では 70 歳以上（46.5%）が他の年齢層より高くなっている。
・2022 年（令和 4 年）全国調査と比較すると、“賛成”の割合は高く、“反対”は低くなっているが、2019 年（令和元年）県調査と比較すると、“賛成”の割合は低く、“反対”は高くなっている。

**図２－１　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方【総数、性別、年齢別**

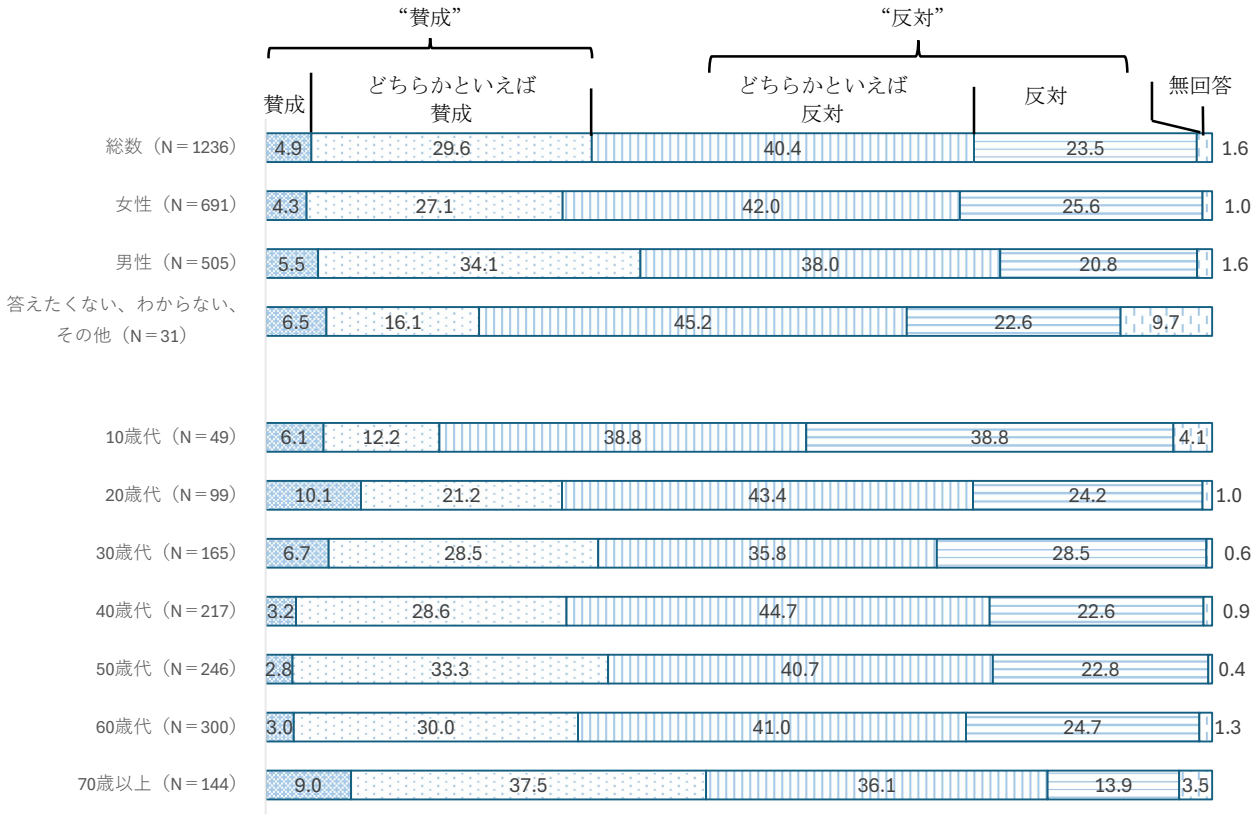
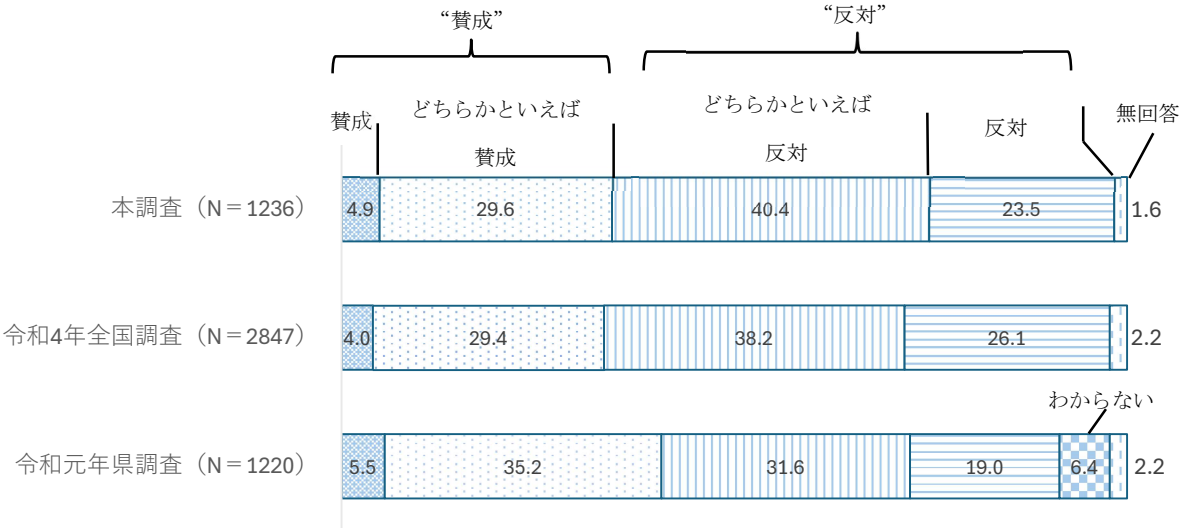



**図２－２　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方【他調査との比較】**

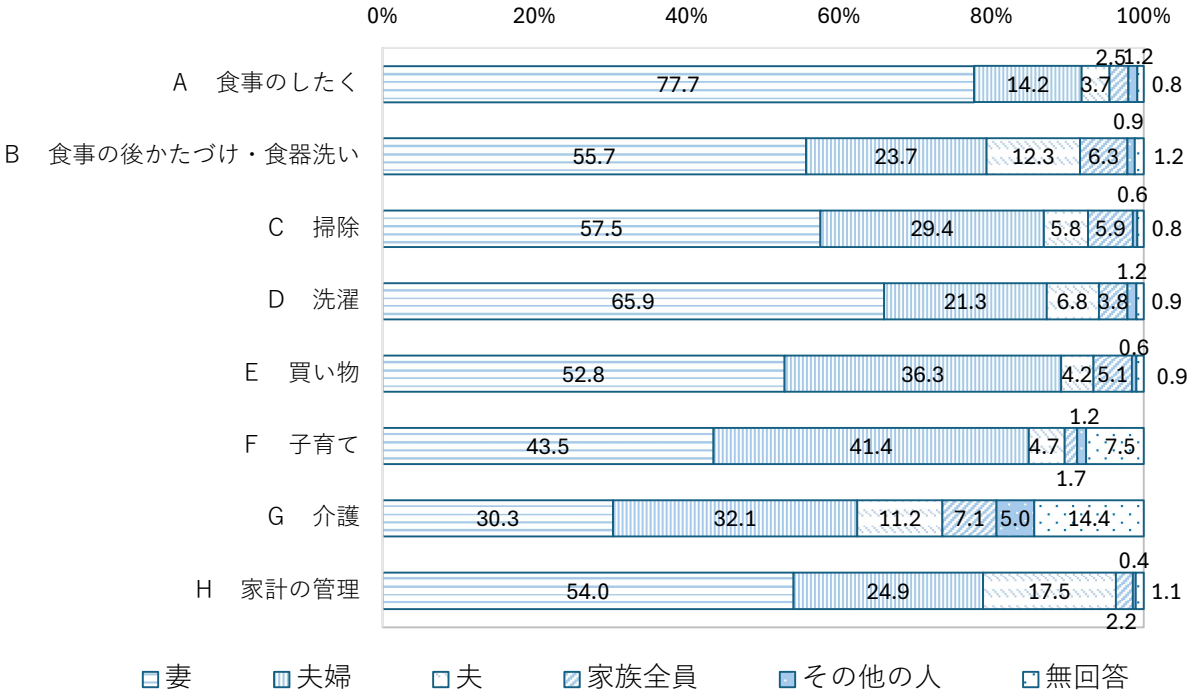



※なお、「わからない」については、本調査・令和４年全国調査では項目がなかった。

## (2) 家事の分担について

現在結婚している人（パートナーと暮らしている人）に８つの項目について聞いたところ、６つの項目で「妻」と回答した人の割合が 50%を超えている。一方、「子育て」について「夫婦」と回答した人の割合は、41.4%となっている。

**図３　家事の分担【項目別】**

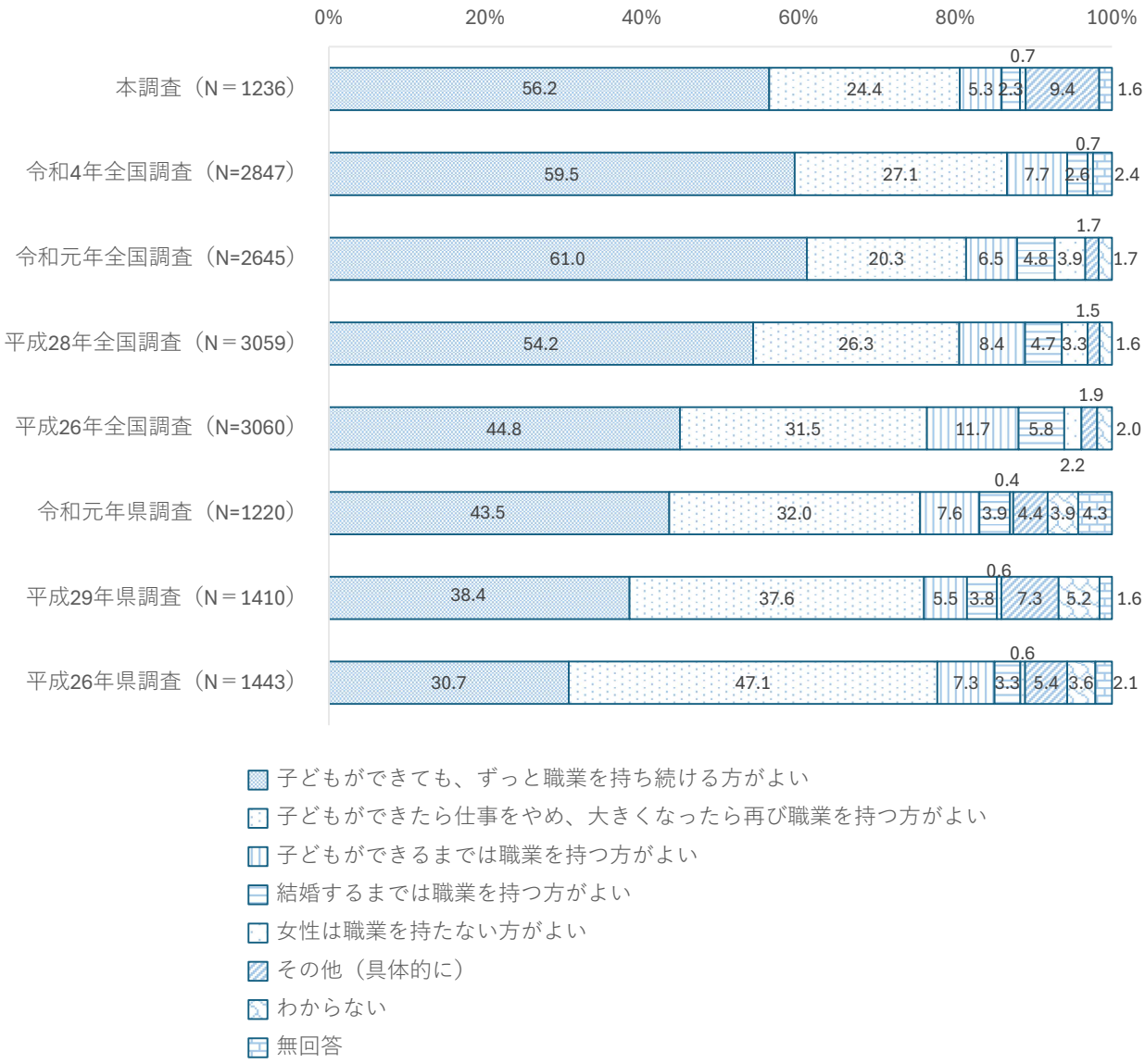


## 3　女性の活躍について

### (1) 女性が職業を持つことについて

・「子どもができても、ずっと職業を持ち続ける方がよい」(56.2%)、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(24.4%)、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」(5.3%) の順となっている。
・「子どもができても、ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合は、2022 年（令和４年）全国調査と比較すると低いが、2019 年（令和元年）県調査と比較すると、高くなっている。

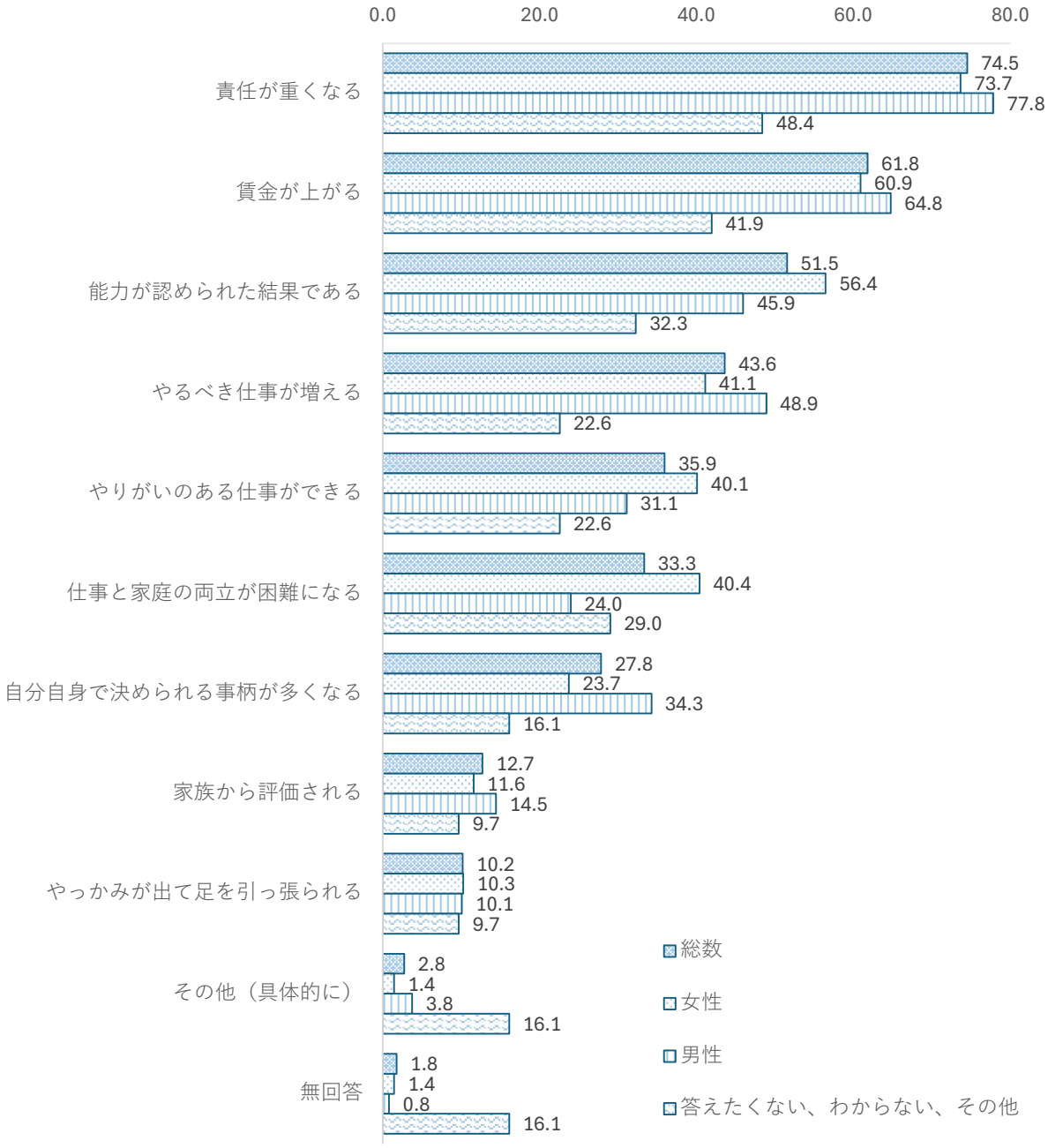
**図４　女性が職業を持つことについて【他調査との比較】**



## (2) 管理職以上に昇進することについて

・「責任が重くなる」（74.5%）、「賃金が上がる」（61.8%）、「能力が認められた結果である」（51.5%）の順となっている。
・性別に見ると、男性より女性の方が高いのは、「能力が認められた結果である」（女性 56.4%・男性 45.9%）、「仕事と家庭の両立が困難になる」（女性 40.4%・男性 24.0%）、「やりがいのある仕事ができる」（女性 40.1%・男性 31.1%）の順となっている。一方、女性より男性の方が高いのは、「自分自身で決められる事柄が多くなる」（女性 23.7%・男性 34.3%）、「やるべき仕事が増える」（女性 41.1%・男性 48.9%）などとなっている。

**図５　管理職以上に昇進することについて【総数、性別】**（%）



## ４　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

### 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること

・＜希望として＞は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(33.7%)、「『家庭生活』を優先したい」(24.9%)「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立したい」(18.0%)の順となっている。
・＜現実として＞は、「『仕事』を優先している」(32.3%)、「『家庭生活』を優先している」(26.7%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」(23.5%) の順となっている。
・＜現実として＞を性別に見ると、女性は「「家庭生活」を優先している」と回答した人の割合（37.5%）が男性（12.3%）よりも高く、男性は「「仕事」を優先している」と回答した人の割合（46.7%）が女性（22.1%）よりも高くなっている。

**図６－１　生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること**
**＜希望として＞【総数、性別】**

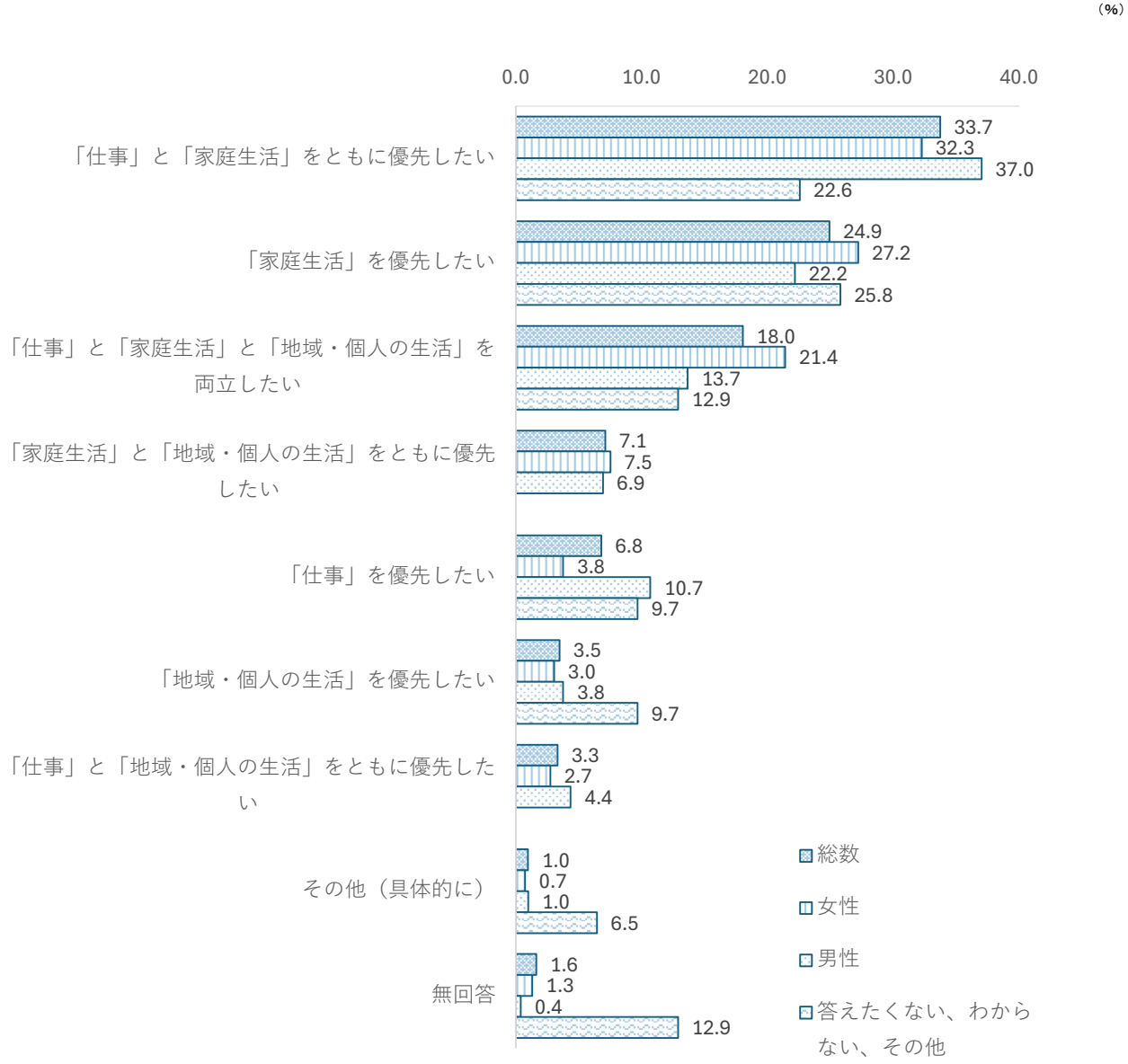
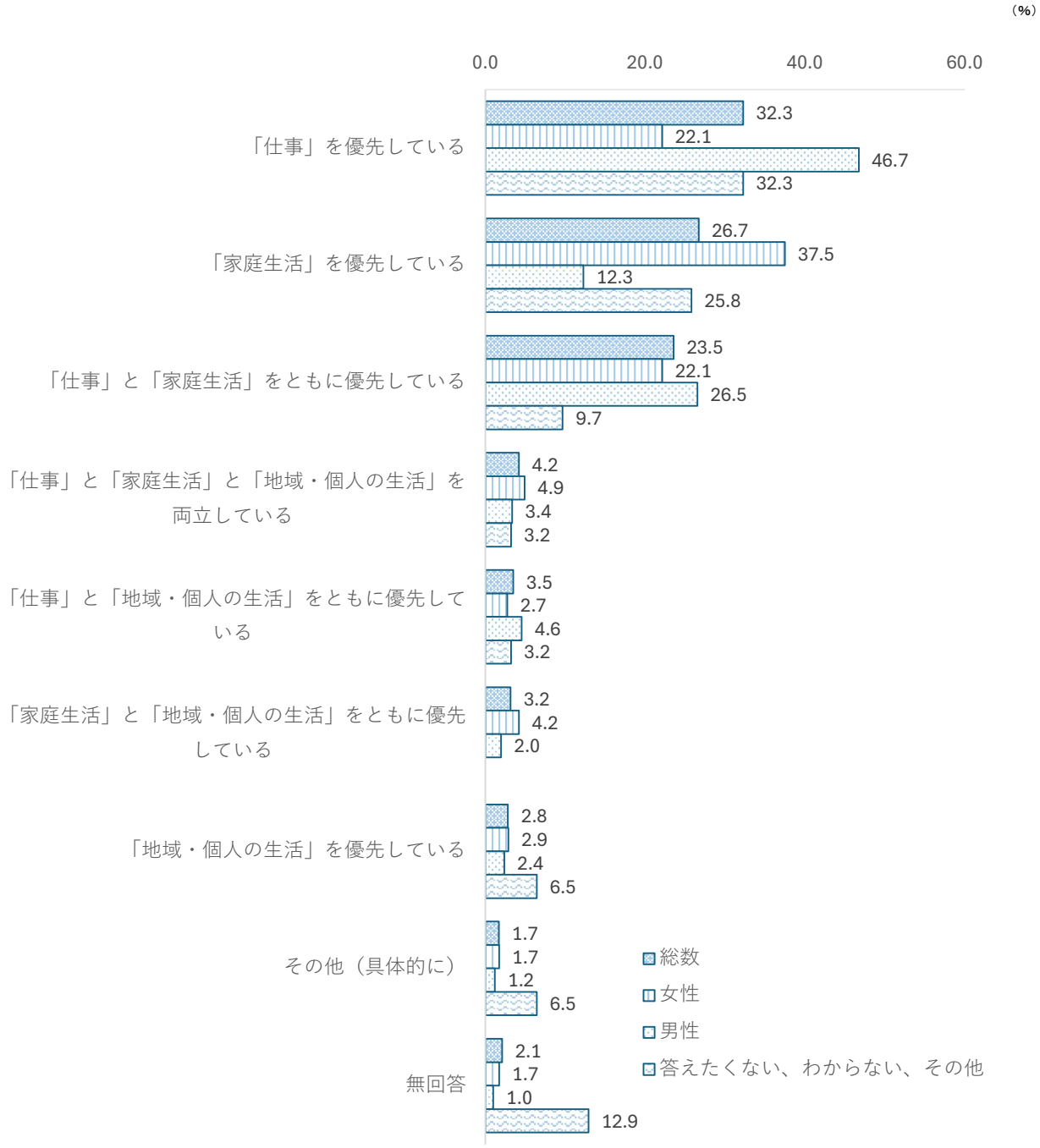


**図６－２　生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で優先すること**
**＜現実として＞【総数、性別】**

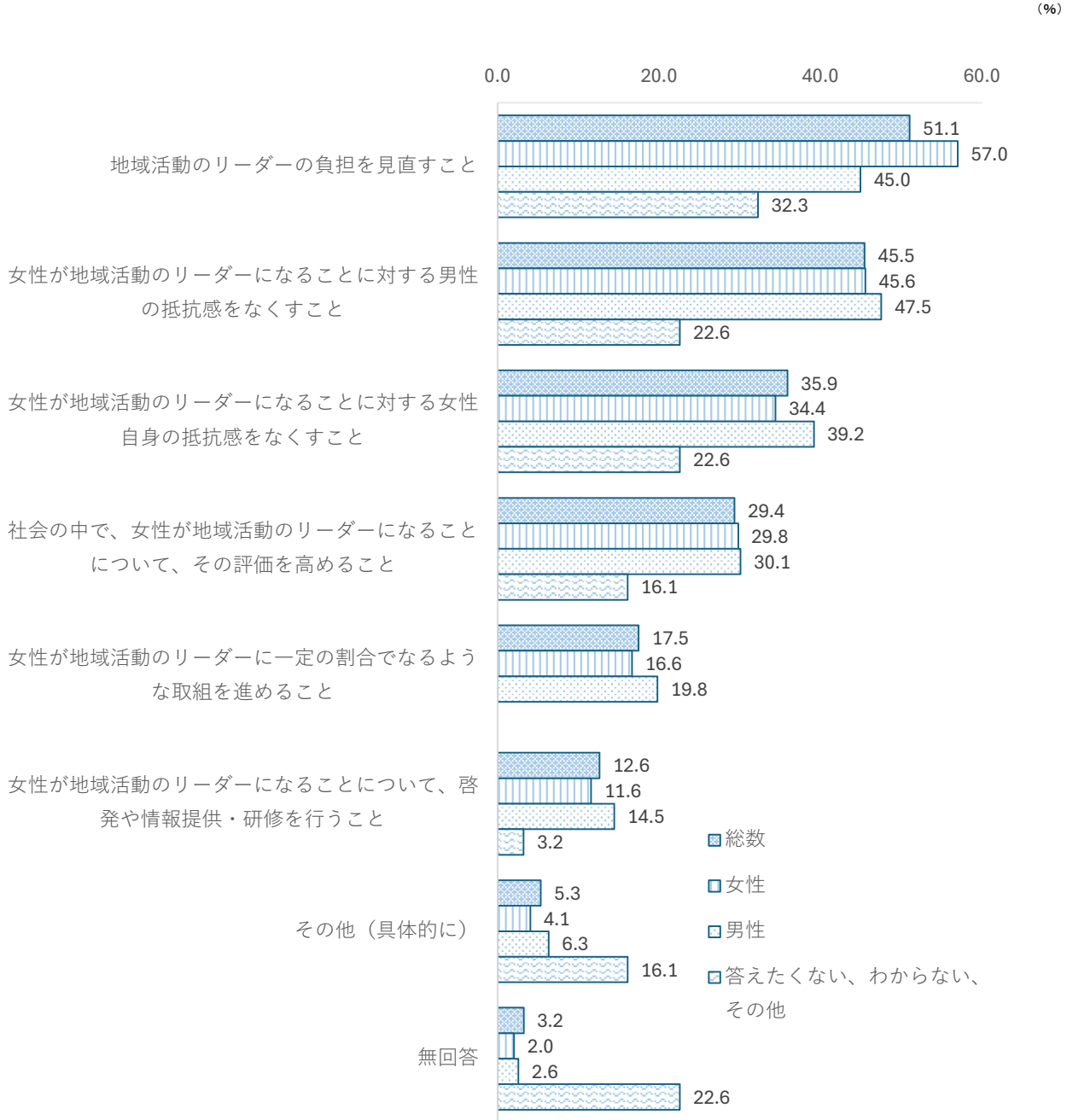


## ５　地域活動について

### 自治会長やＰＴＡ会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

「地域活動のリーダーの負担を見直すこと」（51.1%）、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」（45.5%）、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」（35.9%）の順となっている。

**図７　自治会長やＰＴＡ会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと【総数、性別】**

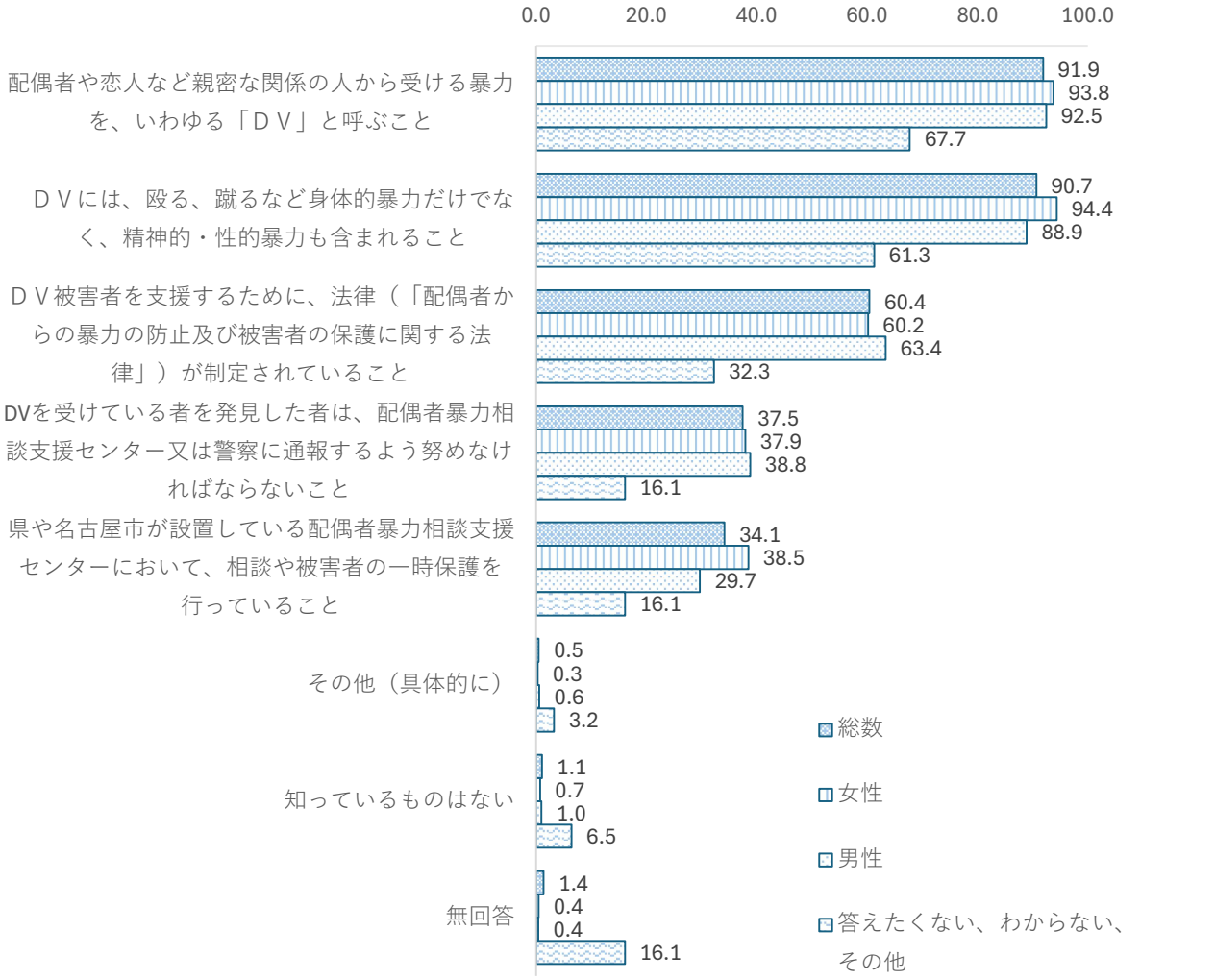


## ６　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）などについて

### ＤＶに関する用語の認知度

「知っている」と回答した人の割合は、「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス（DV）』と呼ぶこと」（91.9％）、「DV には、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」（90.7％）、「DV 被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること」（60.4％）の順となっている。

**図８　ＤＶに関する認知度について【総数、性別】**



## 7　男女共同参画行政について

### 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(61.2%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(56.6%)、「労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」(56.3%) の順となっている。

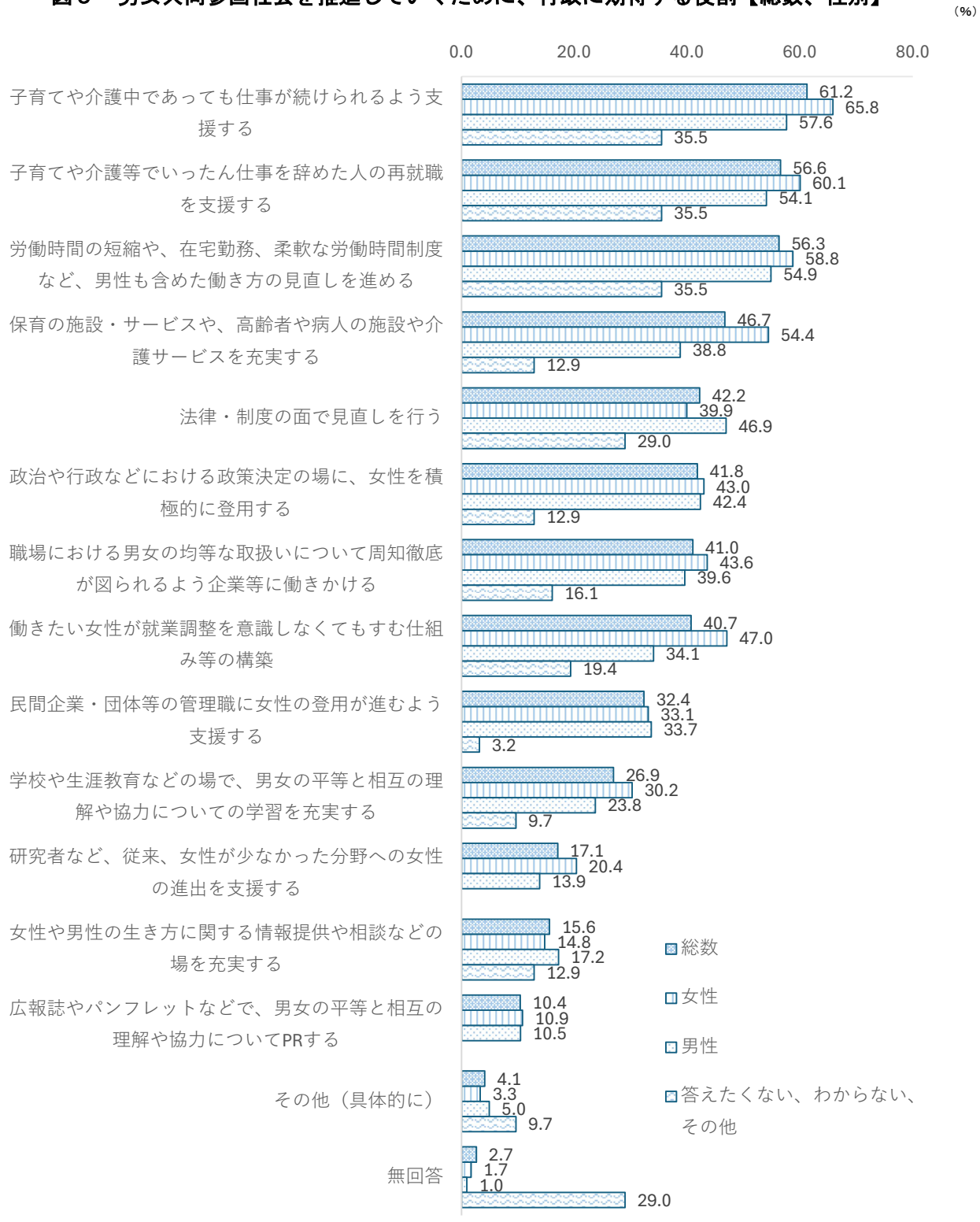



**図９　男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割【総数、性別】**